



ふれあいネットワーク

やまとこおりやま 第117号

# 社協だより

令和2年10月15日号

発行 社会福祉法人  
大和郡山市社会福祉協議会  
大和郡山市植槻町3番8号  
TEL (0743) 53-6531  
FAX (0743) 55-0986  
<http://ykshakyo.or.jp/>



## —「社協だより」について—

これまで「社協だより」につきましては、年4回（6月・9月・12月・3月）発行してまいりましたが、諸般の事情により令和2年度より年2回程度の不定期の発行といたしました。回数は減りますが、よりわかりやすく充実した内容を心がけ、地域福祉の情報発信に努めてまいりますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

社会福祉法人 大和郡山市社会福祉協議会  
事務局長 中山 就平

# フードドライブ (食の助け合い活動) ご協力ありがとうございました



矢田ふる里まつり実行委員会より  
たくさんのご寄付をいただきました



多くの皆さまにご協力いただき、  
たくさんのお食品が集まりました



ボランティア連絡協議会のご協力で、  
食品の仕分け活動を行いました



皆さまの善意とともに、お困りの方々へ  
お渡ししました

コロナウイルスの感染拡大によって収入が減少し「食」の支援が必要な家庭や支援団体に食品を提供するため、6月29日（月）～7月17日（金）にフードドライブを実施し、個人89名、7団体から米125kg、食品490kg、金銭25,000円をご寄付いただきました。皆さまから寄せられた食品は、緊急小口資金等特例貸付申請者のうち食品提供の希望があった120世帯に配布しました。

本会では「フードレスキュー事業」として継続的に食料品の緊急支援を行っていますので、食料品の確保のため、今後も定期的に「フードドライブ」を実施していく予定です。

※フードドライブの取り組みについての詳細はホームページをご覧ください。

次回は11月9日（月）～30日（月）に実施します

# ～コロナ禍での新たなつながり方～

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言が発令され、地域福祉活動も一部中止を余儀なくされました。活動が中止となった間、様々な思いを持って、この時期を過ごされ、3つの密を避けながら、新しいスタイルでの活動ができないかと模索されたことと思います。

そこで今回、地域活動に携わっていらっしゃる方々に話を伺い、それぞれの立場で感じられたことや取り組んだ内容について一部紹介します。

## ふれあいきいきサロン ボランティアさんの声より

- 電話連絡による熱中症予防、新型コロナウイルス感染症の予防啓発と安否確認を行いました。また、電話に出られない方には安否確認のためコロナウイルス対策をして訪問しました。
- サロン利用者の方に向けて手紙や会報をポスティングしました。
- 自粛前の活動の時に手芸店でもらったマスクの作り方を参加者に配りました。それを参考に多くの方が自粛中に自作でマスクを作成しました。
- 各自、家で短冊を作成し、少しでも気分を癒やす事を願い、七夕飾りを行いました。(多くの方がコロナウイルスの終息を願っていました。)
- サロン再開するまでに家で牛乳パックを使って椅子兼踏み台を作る計画をしました。会報3回にわたって説明し、電話や自宅前、玄関等で協力して作り上げました(25人で30台完成)。また、完成したものを写真におさめ会報に載せて配布しました。



## 平和地区の民生・児童委員さんの声より

- 緊急事態宣言の間、民生委員も直接的な接触を避けながら、電話などによる見守り活動を余儀なくされました。活動している中で、お顔を見ないで声だけの支援というのは実際の体調や不安を抱えておられないかなど、詳しい様子まで知ることができない点で難しさを感じました。また今後に向けて対面が出来なくても活動する方法を模索する必要があると感じました。
- この自粛期間を経て、ご近所同士の挨拶やお互いの声かけなどが減ってしまった気がします。
- テレビのニュースや新聞では高齢者の方にとって聞き慣れない言葉や専門用語が飛び交い、わからないとおっしゃる方もおられました。もっとわかりやすくして簡潔な情報が必要だと感じました。

## いきいき百歳体操 代表者の声より

私の所は2月頃、新型コロナウイルスの影響により、いきいき百歳体操の開催を中止するという判断を下しました。



その時私は、「辞める」それで終わりという形ではなく、何か他の事が出来ないか?と考えました。コロナウイルスを侮っている訳ではありませんが、このままでは、高齢者が家に閉じこもってしまったり、折角の元気な地域の力を生かせないと思いました。そこで屋外で行えて十分に距離が取れる「ラジオ体操」をすることに決定しました。マスクをしながら行う、三密を避ける、熱中症予防のため朝から行う等の工夫をしています。より楽しく体操できるよう、コロナ対策も考えながら試行錯誤しています。このような状況だからこそ地域の力を生かし、地域でできることをこれからも考えていきたいと思っています。



# 誰もが支えあい、 助け合える地域づくり ～矢田・筒井・治道地区～

現在、地区懇談会等で出た意見やアイデアをこれからの地区社協活動で実現するために話し合いを進めています。今回は、各地区の取組について報告いたします。

## ○矢田地区社協

テーマ別に3つの委員会【なごみの家委員会・イベント委員会・移動支援委員会】が立ち上がり、定期的に会議が開催されています。内容は、下記のとおりです。

### ●なごみの家委員会

矢田サロン会館（旧矢田山保育園）を気軽に集まれる居場所としての活用方法などについて

### ●イベント委員会

矢田ふるさとまつり活性化のための新たなメンバーの参加などについて

### ●移動支援委員会

地区内の移動や外出に対する車両を使った送迎等の支援について  
具体的な取組に向けた地区内のアンケート調査も検討中

## ○筒井地区社協

地区内にある活動団体のヨコのつながりを深めるため、お互いの活動内容を知ることができる場づくりなどの取り組みについて話し合いが行われています。今年度は、コロナウイルスの影響で各団体等が集まって活動内容の発表を行うことなどが難しい中、地域新聞（地区社協だより）等を活用した各団体の活動紹介について検討されています。

## ○治道地区社協

新たにモデル地区に指定し、「地域の課題解決力を育む地区社協づくり」に取り組んでまいります。今年度は新型コロナウイルス感染症により、地区懇談会開催など実施方法について配慮が必要となりますが、工夫しながら進めてまいります。



矢田地区の委員会の様子

## 生活支援体制整備事業

高齢化が進むなか、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住民同士のつながりや見守り、支え合いの仕組みが必要となります。この事業では、住民の皆さんが主体となった地域づくりをお手伝いします。



- ・地域の皆さんが取り組んでいる活動や困りごとを教えてください
- ・地域のことをみんなで話し合う場を作りましょう

生活支援コーディネーターは市より委託を受けて地域づくりに取り組んでいます。

## 10月1日から 赤い羽根共同募金 が始まりました！

ご協力よろしくお願ひします。

詳しくは、

<https://www.akaihane.or.jp/>  
をご覧ください。



# ボランティアインタビュー



市ボランティア連絡協議会の会長を務められている堀内昭雄さん。  
3つのボランティアグループでもご活躍されています。

## ○ボランティア活動を行う際、大切にされていることはありますか。

どんな人でも対等な関係を築けるように心がけています。また、自分の中で価値観が変わった部分もあって、例えば、以前は“エレベーターの行き先階ボタンを押すこともボランティアになる”と考えていました。しかし、今は“もしかしたら、同乗した人はボタンを押すことを楽しみにしているかもしれない”とも思うようになりました。相手の意思をくみ取りながら、見守ることも大切だと感じます。

## ○ボランティア活動も新型コロナウイルスの影響を受けている所があると思いますが、今の思いを聞かせてください。

コロナに関しては考え方が千差万別。私はそれぞれの判断があっていいと思っていて、その判断を受け入れようという姿勢でいます。

また、感染防止の対策を取っていますが、その中でも衝立を手作りしたり、マイクを使ってマスクをしながらでも声が届くようにしたりと工夫しています。

## ○最後にボランティア活動を始める皆さんに一言お願いします。

若い人も含めて、ボランティア活動に参加してほしいと考えています。そのためにもボランティアについて知ってもらうイベントを開催したいです。イベントを開催するにあたっては、ボランティアグループ同士の交流を深め、みんなで協力することが大切だと思っています。



ボランティアに関する相談は  
ボランティアビューロー（アスモ地下1階）へ  
開所日：月・水・金・土曜日 10：00～16：00

## 新人職員紹介

～大和郡山市の印象について聞いてみました～

橘 友佳理（ボランティア・日常生活自立支援事業担当）【写真左】

ボランティア活動に熱心な方が多いと感じました。ボランティアの皆さんの力が結集されれば、大きな力になると思うので、皆さんの活動を応援できるように頑張りたいです。

亀山 徹（ふれあいいきいきサロン・郡山地区・矢田地区担当）【写真中央】

会議に参加させていただき、「〇〇さんのために！」と身近な人を思い浮かべながら話をしているのを聞き、地域のつながりの温かさを感じました。地域の皆さんと住みよいまちづくりを実現したいです。

西迺 真菜（発達支援センターめばえ 保育士）【写真右】

子どもたちや保護者の方々と関わる中で、地域とつながる大切さを日々感じています。「いつも笑顔で！」を合言葉に頑張ります。

地域で見かけたら  
お声かけください



## 善意銀行へのご寄付

ありがとうございました  
（令和2年1月～令和2年7月末まで）

【無指定寄付】 ※希望者のみ掲載（敬称略）

○郡山北地区民生児童委員協議会  
29,800円

○ユニー（株）  
“小さな善意で大きな愛の輪”運動  
アピタ大和郡山店 店長 川崎 晃裕  
177,878円

○ニッタ（株）  
代表取締役社長 石切山 靖順  
マスク 1,000枚  
マスクインナーシート 5,000枚



ニッタ（株）様

問い合わせ

社会福祉  
法人

〒639-1005 大和郡山市植槻町3番8号

大和郡山市社会福祉協議会  
社会福祉会館（福祉課） TEL 53-6531  
FAX 55-0986

■総務課

TEL 53-6533

■施設事業課

TEL 53-6535

■老人福祉センター（ゆたんぼ）

TEL 53-0122

■ボランティアビューロー

TEL 55-7333